

2020年度 支部・職域協議会活動報告

今回は、各協議会ごとの活動状況を紹介します。

医療職域協議会

鈴木京子

2020年度政策事業全国病院部門実態調査(業務量調査)の実施について

日本栄養士会医療職域推進委員会において、2年に一度行われる診療報酬改定のための基礎資料の収集を目的に「全国栄養部門実態調査」を実施しております。

2020年度においては、診療報酬改定の要望事項としての管理栄養士『病棟適正配置』に向け、①本来管理栄養士が行うべき業務の全体量から必要な管理栄養士数を明らかにする。②医師・看護師等の負担軽減に繋がることを明らかにする。この2つを目的に業務量調査(管理栄養士の病棟業務の内容とこれに要する時間)を、2020年10月～12月にかけての任意の連続する35日間(5週間)の業務量の調査を実施致しました。

調査の対象施設は日本栄養士会医療職域企画運営委員及び都道府県医療事業部企画運営委員が勤務する医療施設の全国で357施設であり、福島県では総合南東北病院、福島赤十字病院、公立藤田総合病院、いわき市医療センター、会津中央病院、太田熱海病院、竹田総合病院が調査対象の施設となりました。

栄養事務業務に従事するスタッフ全員(調理業務のみに従事するスタッフは除く)また管理栄養士の業務においては、給食管理業務の業務委託の状況により、大きく状況が異なることから給食管理業務を委託している御社スタッフの方にも調査対象スタッフとしてご協力を頂きました。

この調査により、患者を支える根幹となる食事の提供に際し、栄養部門の業務の実態から、その専門性や現場が抱える課題等においても明らかとなり、今後の診療報酬改定に向け更なる前進に繋がればと思うところであります。

今回の管理栄養士『病棟適正配置』に向けた業務量調査にあたり、対象となられた各施設の皆様には、業務ご多忙中にも関わらずご協力頂きましてありがとうございました。

今年度は活動の展開がなかなか図れない状況であり1日も早いコロナ終息を願うばかりですが、どうぞ皆様におかれましてもコロナ禍の中くれぐれもご自愛下さい。

福祉職域協議会

鎌田雅子

コロナ禍による子育て支援

『就学前の子育て家庭向け 新型コロナウイルスに係る緊急アンケート』を全国認定こども園協会が5月に行い、結果を見る機会がありました。それにより保護者が多くの不安を抱えている現状を知ることが出来ました。見えないウイルスによる感染の心配、休職による金銭面の不安等様々な声がありました。在宅による子育てで余裕がなくなり叩いてしまいそう、叩いてしまったとの内容もありました。煮詰まって、誰かに分かってほしくて必死の思いで記入したのではと感じました。私の勤務するこども園には子育て支援センターが併設されており、多職種連携で保護者に支援をしています。管理栄養士として保護者の気持ちを受け止め、寄り添い、少しでも不安を軽減出来ればと思います。

会員の皆様もこのコロナ禍で、通常の業務に加え心配ごとが尽きない日々だったのではないのでしょうか。福祉協議会としても、昨年までのような研修を開催することが出来ず非常に残念です。今後、このような中で何が出来るのか皆様のご意見を頂戴しながら進めていきたいと思ひます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

